

射水市総合計画審議会 第3回未来創造部会 会議録

日時 令和4年5月17日(月) 午前10時～11時40分

場所 射水市役所本庁舎2階201、202会議室

出席者

(委員)

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進(リモート参加)、荻浦明希子、樋上正之、二川由利子、松本三千人、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人

欠席委員：松本吉晴

(当局)

現地参加

小塚企画管理部長、北財務管理部長、小見福祉保健部長、桜川議会事務局長、長谷川市民生活部長、久々江教育委員会事務局長、轟福祉保健部次長、中川財務管理部次長、塩谷教育委員会事務局次長、六渡教育委員会事務局次長、荒谷議会事務局次長、松下市民生活部次長、森田未来創造課長、菅原政策推進課長

リモート参加

宮本産業経済部長、福井産業経済部次長、坂井財政課長、佐藤資産経営課長、高橋課税課長、鎧塚収納対策課長、齊木市民活躍・文化課長、大居子育て支援課長、野崎検査監、星野学校教育課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 基本構想素案について

(2) 基本計画骨子案について

政策推進課長	資料1～2に基づき説明
部会長	素案の構成や関係人口の取扱い等について意見をいただきたい。
委員A	構成について、P16の一番上の将来の姿が1つの括りになっているが、P7は2項目に分かれている。2つに分け、1つ目は第1章、第2章、2つ目は第3章、第4章につながっていくのではないかと。 ライフステージでは「射水で『生まれる』あなたへ」となっているが、それにつながる主要施策は親目線になっており、違和感がある。 関係人口の目標設定の在り方については、〇〇人口としているが、誘致人口、友達人口、セカンド・ホームタウン人口、デュアラー人口など、二重生活で利用してもらえる人を関係人口として受け入れ、地域の活性化につなげるイメージとしたものがよいのではないかと。 基本計画骨子案では、ヤングケアラーやスマートスクール、リカレント教育などカタカナ語が多く、カッコ書きや下段に注釈があるといい。アンコンシャス・バイアスのみカッコ書きが付いている。 骨子案 P24、5-1の現状と課題の4つ目「障がい者、家族の高齢化」は、障がい者と家族の高齢化なのか、障がい者とその家族の高齢化なのか、ニュアンスがわか

	りにくい。
事務局	<p>指摘のあった P16 の将来の姿について、二つを分ける。1つ目の将来の姿が、親目線、2つ目の将来の姿が子ども目線となっている。それに続く基本目標と主要施策については、このままとさせていただきたい。</p> <p>カタカナ語については、なるべく使わないようにしたいと考えているが、やむを得ず使う場合には注釈をつけることとする。</p>
福祉保健部長	5-1の現状と課題の4つ目については、障がい者と障がい者の家族、両方の高齢化の課題があると捉えている。障がい者が高齢化している中でのサービス供給の課題、家族が高齢化する中での親亡き後の対応の検討の必要が出てきている。
部会長	「射水で『生まれる』あなたへ」という表現についてはどうか。
委員 A	親目線の施策となっていることを踏まえると、「生みたい」や「生む」なども考えたが、表現がダイレクトすぎるとも感じている。
事務局	ライフステージの表現については、あくまでも一人の主観的な人生を表現しており、それで統一したいと考えている。また、「生む」とした場合、疎外感を覚える人がいるのではないかと危惧している。
委員 B	ライフステージと関係人口の整理において、前回の案から「あなたへ」の記載がなくなった。ライフステージの表現でも「あなたへ」がなくてもいいのではないか。そのほうが余計な誤解を与えないと思う。
委員 C	事務局から「一人の主体として」という説明があった。これを聞いて私は納得した。
委員 D	<p>「生まれる」人に「あなたへ」と言うのであれば、やはり、生まれた人、もしくはもうすぐ生まれる人に言うべきであり、家族を築くところから始まるのに違和感を覚える。「新しい命の誕生を応援する」から始めて、「新しい家族を築く」ことは、自分らしく暮らしていく中で選んでいくことではないか。</p> <p>ライフステージに「あなたへ」を入れたのは市の挑戦と受け取っている。疎外感を受ける人もいるだろうが、自身のこととして受け取る人もいるはずであり、取っつまえばいい、というのはどうかと思う。</p>
部会長	<p>皆さんの意見をこの場でまとめるのは難しい。最終的にはこちらに任せてほしい。</p> <p>「〇〇人口」についてはいかがか。</p>
委員 E	<p>「友好人口」、「興味人口」など、みなさんに届きやすい簡単な表現がよいのではないか。</p> <p>「生まれる」に関して、子どもの成長には、親の学びや日々の生活が欠かせないため、親目線の文言が上の方にきてしまうのは、しかたないのでは、と思う。</p>
委員 F	関係人口を増やすためには、もう少しゆるい、居心地のいいワードも入れた方がよい。地域コミュニティに強制的な感じを持つ人もいる。キャッチフレーズなどには、ゆるやかな、多様性のある、誰でも参加しやすいワードも必要だと感じた。
部会長	<p>いろいろと意見をいただいたが、基本構想素案の全体的なところは、これで進めさせていただいてよいか。</p> <p>(異議なし)</p>
委員 C	<p>「射水市の概況部分」を後ろに持っていったのは賛成だが、「計画策定の留意点」は「まちづくりの主要課題」とで重なる部分があるので、整理してはどうか。</p> <p>各部の章の数にばらつきがある。もう少しバランスに工夫が必要ではないか。</p> <p>第1部の第1章は「新しい家族を築く」とあるが、「築く」といった場合、その対象は何がいいのか。第4章では「寄り添い」とあり、漢字が使われているが、第</p>

	<p>5部は「寄りそい」と平仮名となっている。特別な理由があるのか。</p> <p>前回と比べて、第3部と第4部が入れ替わっている。私もその方が良いと思うが、何か意味があるのか。</p> <p>第7部第3章「恵まれた自然環境と保全と、地域の伝統文化の継承を支援する」と変更されているが、前回の「恵まれた自然環境を保全し、地域の伝統文化の継承を支援する」のままでいいのではないか。</p> <p>漢字と平仮名の表記の仕方が統一されていないところが各所にみられる。しっかり見ていただきたい。句読点の打ち方も気になるところがある。</p> <p>第7部は、「人と人 今と未来をつなぐ」と「人と人 今と未来とつなぐ」のどちらが正しいのか。</p>
事務局	<p>第1編の「まちづくりの主要課題」と射水市の概要の「計画策定の留意点」については、統合もしくは整理していく。</p> <p>第3編第1部第1章の「新しい家族を築く」については、施策に結婚支援を含めていることから、このような表現にした。</p> <p>各章のバランスについては、課題が多いところ、力を入れて取り組んでいるところはボリュームが大きくなるが、第1部の第1章と第2章を一つにするなどバランスを意識して調整したい。</p> <p>第5部の「寄りそい」の「そい」は、「添い」、「沿い」など読む人によって様々なイメージがあると考え、あえて平仮名にしている。</p> <p>文章の中での字句の統一感は、事務局にて改めて確認する。</p> <p>第3部と第4部が入れ替わっている理由について、第3部は、インフラ関連であり、すべての市民が共通に関わるため、上に持ってきた。第4部は、人権に関わる部分であり、第5部の福祉・医療関連へのつながりを考慮した。</p> <p>第7部のタイトルは、「人と人 今と未来をつなぐ」が正しい。</p> <p>第7部第3章「恵まれた自然環境と保全と、地域の伝統文化の継承を支援する」に対する指摘は、改めて検討する。</p>
委員 G	<p>計画が出来上がった際の冊子は、どういう人たちを対象に配付するのか、概要版だけを配るのか。</p>
事務局	<p>配付については未定である。全戸配布までは難しいが、なるべく幅広く多くの人に見てもらいたい。市のホームページには掲載する。</p>
委員 G	<p>現行の計画のようなページ数の計画書を、果たしてどれだけの市民が見てくれるのか。基本構想と基本計画では重複している部分も多く、精査して薄いものにするなど工夫が必要ではないか。</p>
政策推進課長	<p>ポイントを取りまとめた概要版の作成も考えている。</p>
部会長	<p>基本計画骨子案について意見はあるか。</p>
委員 C	<p>基本計画の構成について、流れとしては、最初に「現状と課題」があって、その後「施策の方向性」、「成果指標」が来るのではないか。</p> <p>P15の「現状と課題」の2つ目に「国による女性活躍の推進」とある。現状はそうかもしれないが、課題に軸足を置くとすれば、表現が消極的、受け身的ではないか。</p>
部会長	<p>表現については、今後揉んで検討していく必要がある。</p>
委員 B	<p>ライフステージで整理しているが、一つの行政課題に対して複数のライフステージにまたがるものも多く、計画の中にどのように落とししていくのか。時間をかけて検討していく必要がある。</p>
委員 D	<p>女性活躍については、職種によってライフステージに大きく影響する人とそうでない人もいる。企業側の意識が変わっていかないと、安心して産み育てることは</p>

きない。働き方改革のところに、産休育休やポジションについて入れられたらいい。一番大事なのはファーストキャリア、初めて就職した会社の意識であり、会社の教育は重要だと考える。

「〇〇人口 100 万人」について、なぜ 100 万人なのか。また、このフレーズはどこかで聞いたことがあるが、その一部を変えるだけで、市民に訴求する力があるのか疑問である。人数についても、達成するための目標であるべきであり、ざっくりと決めてしまわず、理解できるストーリーにしてほしい。

また、人数を目標にしているが、たった一人であっても地域を変える力がある。一人ひとりのライフステージに着目し、「あなたへ」としているところに、ざっくりとした人数の目標を掲げるべきなのか。

部会長 県が「幸せ人口 1000 万人」としており、それに倣った部分がある。100 万人については、事務局の説明では、市民一人につき 1 年間で 1 人、10 年間で 10 人プラスアルファということである。

他の部会でも議論される場所であり、それらを踏まえてまとめていくことになる。

事務局 関係人口に関して目標に近いものを記載すべきかどうかを検討する余地がある。ただ、重要な視点として関係人口がクローズアップされる中で、ざっくりとした目安、夢でも示すべきである、との考えから記載している。示し方について意見をいただきたい。

委員 C 今朝の新聞に、県内への移住者が最多の 823 人との記事があった。そのうち、南砺市が 119 人であり、背景には相当な努力があるのではないかと推察している。また、京都では、「泣いてもかましまへん！」と銘打って、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいるとの報道も聞いた。大変参考になる。行政だけでなく、市民一人ひとりにどう意識を持ってもらうかという視点が計画には欠かせないと思う。人を動かすような文章表現に努めてほしい。

副部会長 南砺市では、小規模多機能自治に取り組んでいる。射水市でも市民の動きが生まれてくるような総合計画になるといい。

「 人口」については、射水をずっと応援してくれる人、「いみずっと人口」はどうか。

部会長 本日いただいた意見は、全体会での協議資料に反映する。資料への反映については事務局と部会長、副部会長に一任してほしい。

(異議なし)

4 その他 事務局

次回全体会を 5 月 31 日(火)午後 7 時から、本庁舎 3 階で開催を予定している。意見提出は今週中にいただきたい。次回専門部会は 7 月下旬を考えている。

5 閉会

以上